

広報ただみ診療所

朝日診療所

所長 若山 隆



「乳がんの予防について」

最近、有名人の方が乳がんにかかって話題になっていましたね。今回は乳がんの予防についてお伝えしたいと思います。女性の癌の罹患数(1年間に癌と診断された人数)で乳がんは一位になっており、年間およそ53,000人が乳がんと診断されています。しかも年々増加傾向にあります。女性に多い他の癌である大腸がん、肺がんや胃がんに比べて、比較的若い年齢(40～50代)に見られるのが特徴で、30歳から64歳までの働き盛りの女性のがんによる死因の一位が乳がんです。

非常に多い乳がんですが、検診で予防が可能です。厚生労働省は40歳以上の女性にマンモグラフィーによる乳がん検診(2年に1回)を勧めています。マンモグラフィーとは乳房を圧迫してレントゲン撮影する検査で、触ってもわからない早期の癌の発見が可能になり、早期に見つけることで乳房を温存する手術などで癌が治療できるようになります。マンモグラフィーは特に乳房の大きな方で癌が見にくくなる場合もあるので、医師による触診が併

用されます。その他、超音波検査で乳がんの検査を行う場合もあります。

しかし、40歳より前に乳がんにかかる方もおられます。乳がんは遺伝の関与が強いといわれており、血縁者に乳がんがおられる方は要注意です。とくに父方・母方問わず血縁者に2人の乳がんの方がおられる場合や、血縁者に一人でも45歳以前に乳がんになった方がいる、もしくは悪性度の高い乳がんになった方がいる場合は、30歳代から婦人科で乳がん検診を相談するほうが良いと思います。アメリカの女優のアンジェリーナ・ジョリーさんは遺伝子検査により将来乳がんになる可能性が非常に高いと判断され、乳がんになる前に乳房切除術を受けたことで話題になりました。

日本はまだまだ乳がん検診の受診率が低い(20%程度)とされており、もっと多くの方に乳がん検診を受けていただきたいと思います。

地域おこし協力隊として vol.20

空き家活用促進隊

大竹 康平



「空き家を調べています」

初めまして、只見町地域おこし協力隊、大竹康平です。4月に小林に引っ越してきました。空き家を借りて1人暮らしをしながら、明和振興センターに勤めています。業務内容としては主に「空き家の利活用」についてです。

全国に800万軒以上の空き家がある中で、只見町も例外ではありません。町全体に200軒以上の空き家があります。そんな空き家を、「地域の資源」として利活用していこうという方針です。

今、「只見町空き家バンク」の設立を目指しています。空き家バンクというのは、空き家の情報をイン

ターネット上に公開して、売りたい・貸したい人と、買いたい・借りたい人とをマッチングさせる仕組みです。全国的にも、徐々に普及しつつあります。「只見に住みたい」けど、「住居がない」という悩みを抱える人が町内外には大勢いるため、空き家バンクが、地域活性化として有効に機能することを期待しています。

現在は、今年度の空き家バンク設立を目標に、空き家持ち主の意向など、詳細調査を進めているところです。調査にご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。